

「小規模建築物基礎設計例集」の刊行

今月号から「小規模建築物基礎設計例集」について数回に分けて紹介致します。今回は設計例集の全体構成について、次回より事業損失に関連のある「5章 修復工法」の内容についてお届けします。

【小規模建築物基礎設計例集 序(抜粋)】

2008年2月に本会より「小規模建築物基礎設計指針」が刊行されはや3年が経過し、この間に読者より数多くの質問が寄せられた事を受けて、より深く指針の内容を理解して頂くために、今回「小規模建築物基礎設計例集」を刊行することとなった。

2011年 2月 日本建築学会



目次

第1章 概要	1.1 節 設計例の概要
	1.2 節 基礎の選定方法
	1.3 節 荷重の算定方法
第2章 地盤補強を要しない直接基礎の設計例	2.1 節 砂質土地盤に建つ建物の布基礎
	2.2 節 粘性土地盤に建つ建物のべた基礎
	2.3 節 ローム地盤に建つ建物の偏心布基礎
	2.4 節 片側に土圧を受ける粘性土地盤に建つ建物の布基礎
第3章 地盤補強を要する直接基礎の設計例	3.1 節 中間層地盤に浅層混合処理を適用した場合の設計
	3.2 節 支持層が浅い場合の深層混合処理工法の設計
	3.3 節 支持層が深い場合の深層混合処理工法の設計
	3.4 節 支持層が浅い場合の木杭の設計
	3.5 節 支持層が深い場合の木杭の設計
	3.6 節 支持層がきわめて深い場合の小口径鋼管杭の設計
	3.7 節 小規模建築物の一部に地下室がある設計
	3.8 節 液状化の可能性の判定と対策
第4章 造成地盤における擁壁と基礎の設計例	4.1 節 擁壁の計画
	4.2 節 擁壁の設計
	4.3 節 擁壁下部地盤の検討
	4.4 節 既存擁壁に近接する場合の基礎設計
第5章 修復工法	5.1 節 不同沈下の調査および修復工法選定の検討例
	5.2 節 耐圧版工法による沈下修復工法の設計例
	5.3 節 小口径鋼管杭圧入工法による沈下修復工法の設計例

(第5章は弊社研究所伊奈が執筆担当致しました。)

【第1章 概要】

1.1 節 設計例の概要(抜粋)

小規模建築物基礎設計指針の刊行により、おおむね目標とする戸建住宅基礎設計・施工の品質管理に関する考え方が定着してきた感があるが、反面、設計上の細部については設計者の判断に委ねる箇所も多く、設計の具体的な諸数値を求める声も挙がっていた。本書は指針をより深く理解できるよう、また適切に使用される事を目的に刊行したものである。

(第5章について)

第5章では修復工法の計画・設計例を示している。ここでの修復とは、大規模な揚屋を意味する。修復工法といえども基礎に対する設計の方法は新規の場合と何ら変わることはない。これまで、修復に対する設計方法を提示した技術基準類は皆無であり、本書により、修復設計の考え方が理解される事を期待している。

【次回予告】

今回は5.1節のうち「沈下修正要否の判定」についてお届けします。